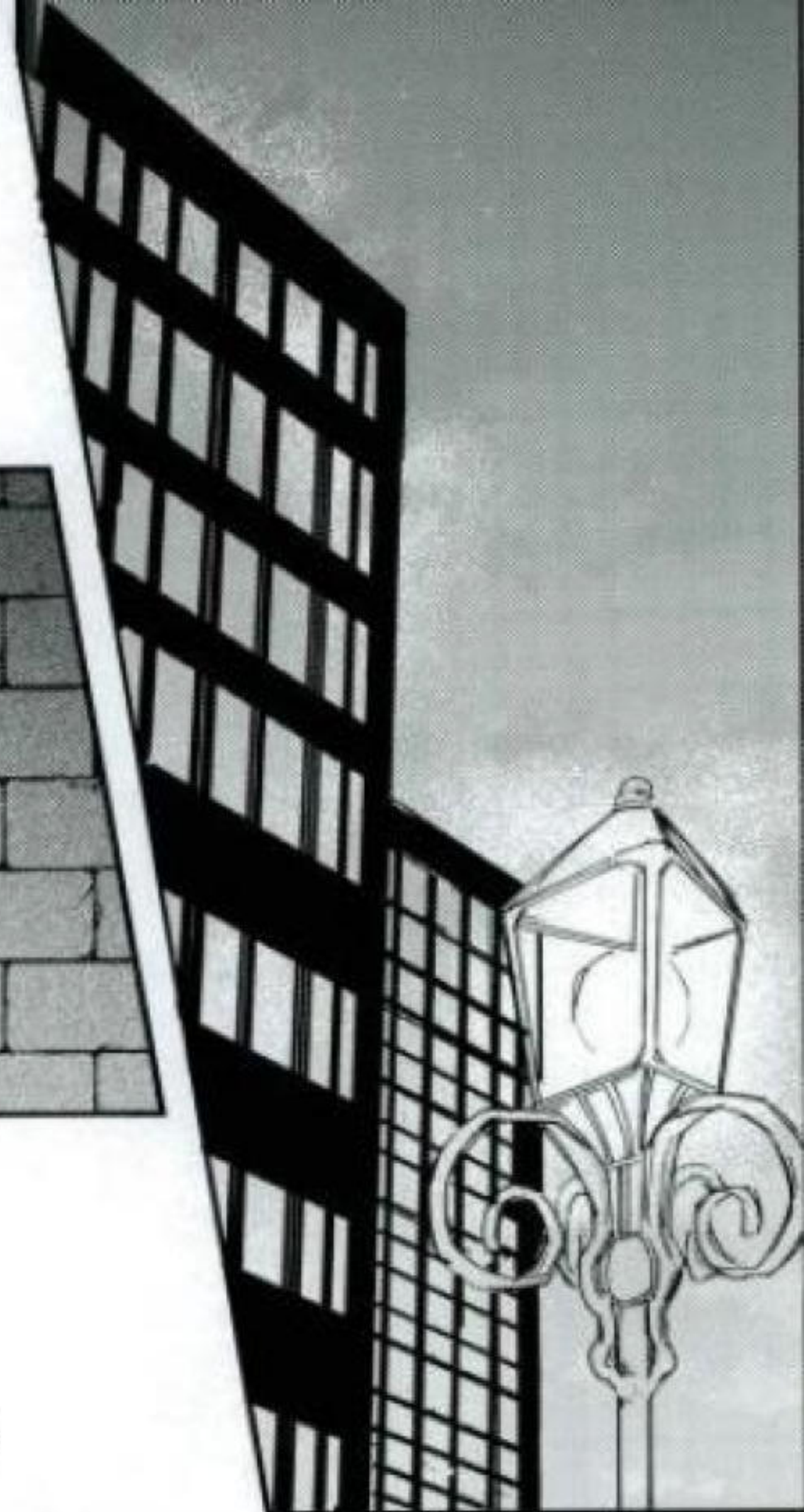




YOI unofficial fan book  
Otabek Altin/Yuri Plisetsky

The start of the  
R18: adult+ only.





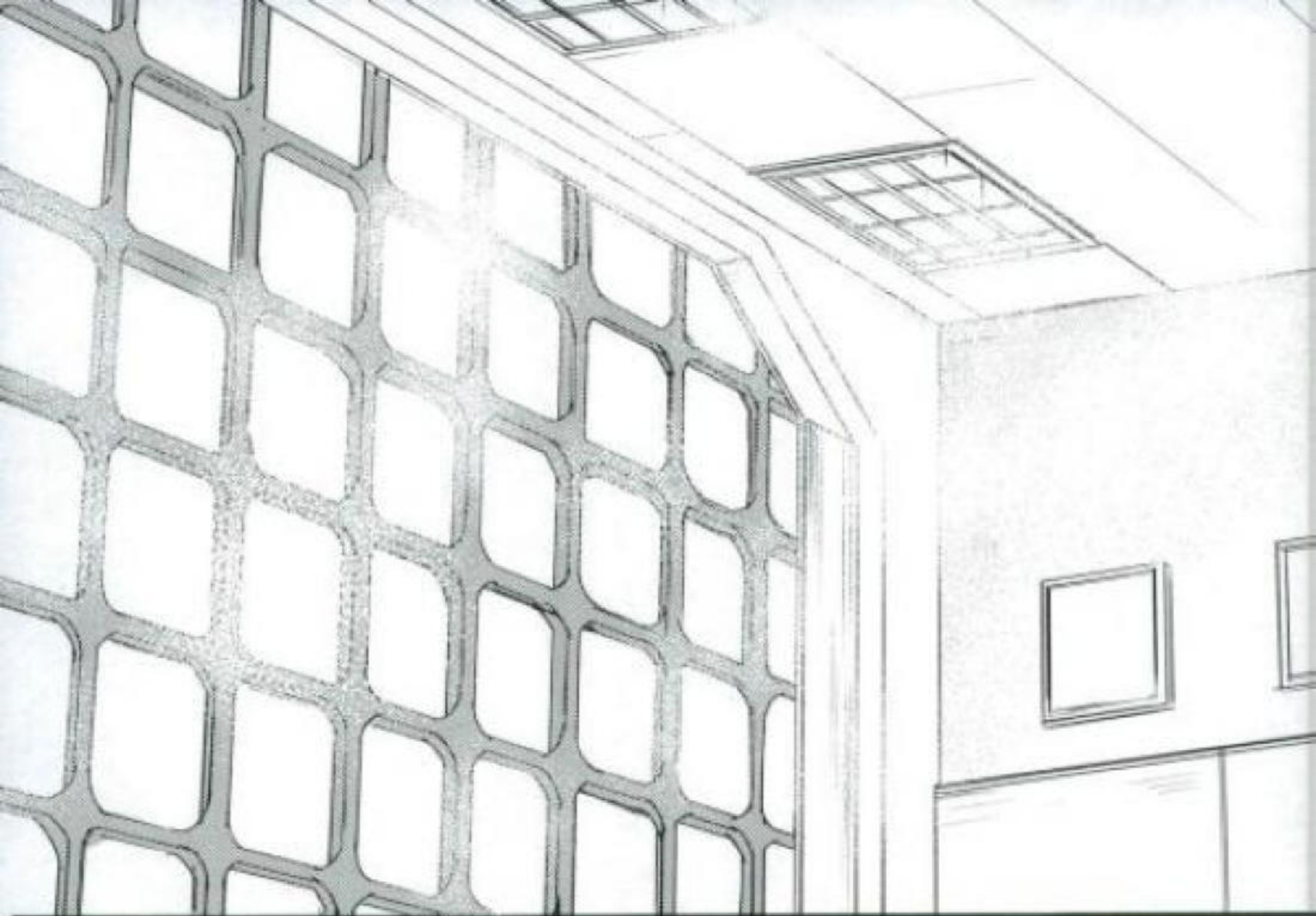




この旅の始まりは君と

*The start of this journey  
with you*

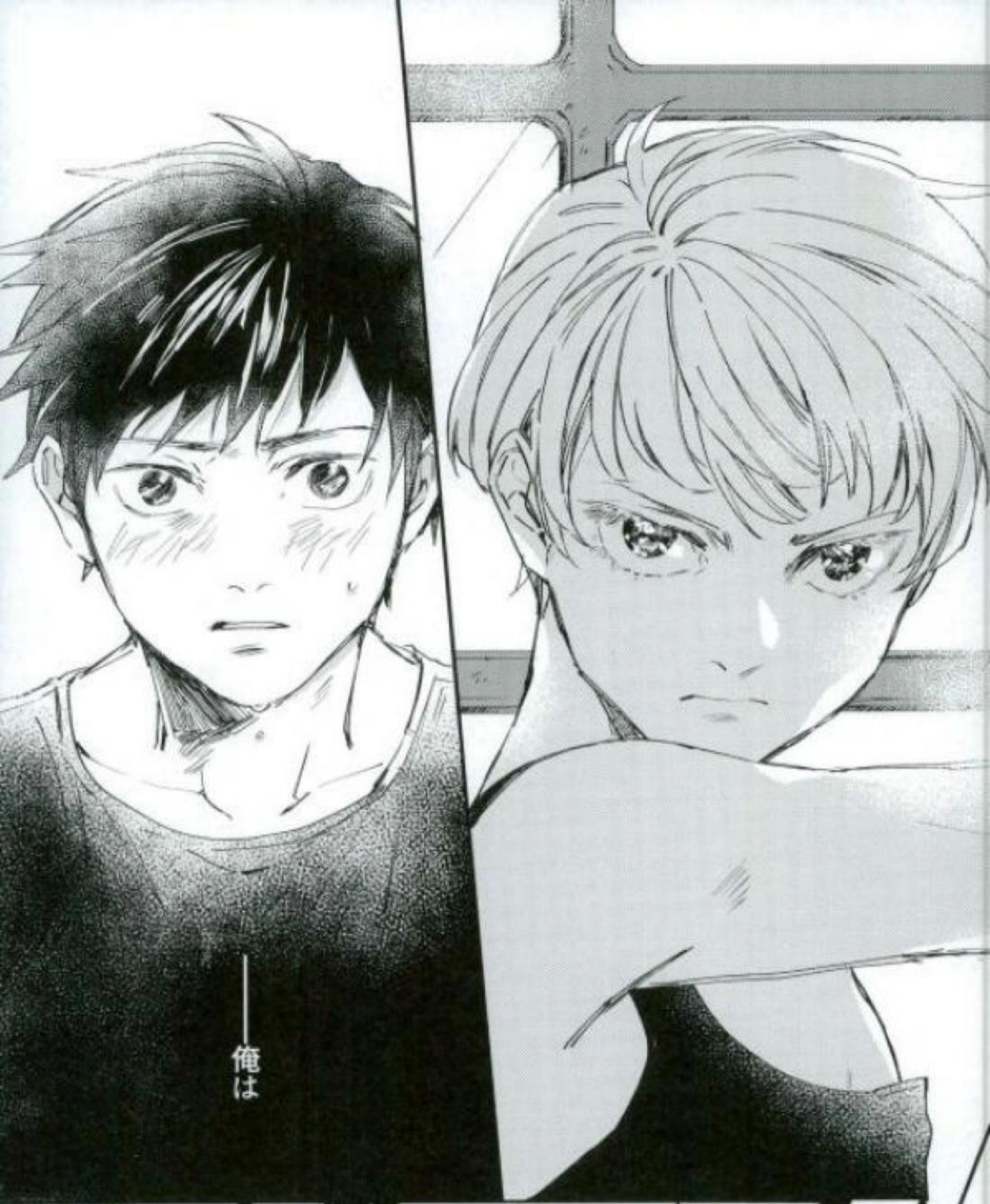












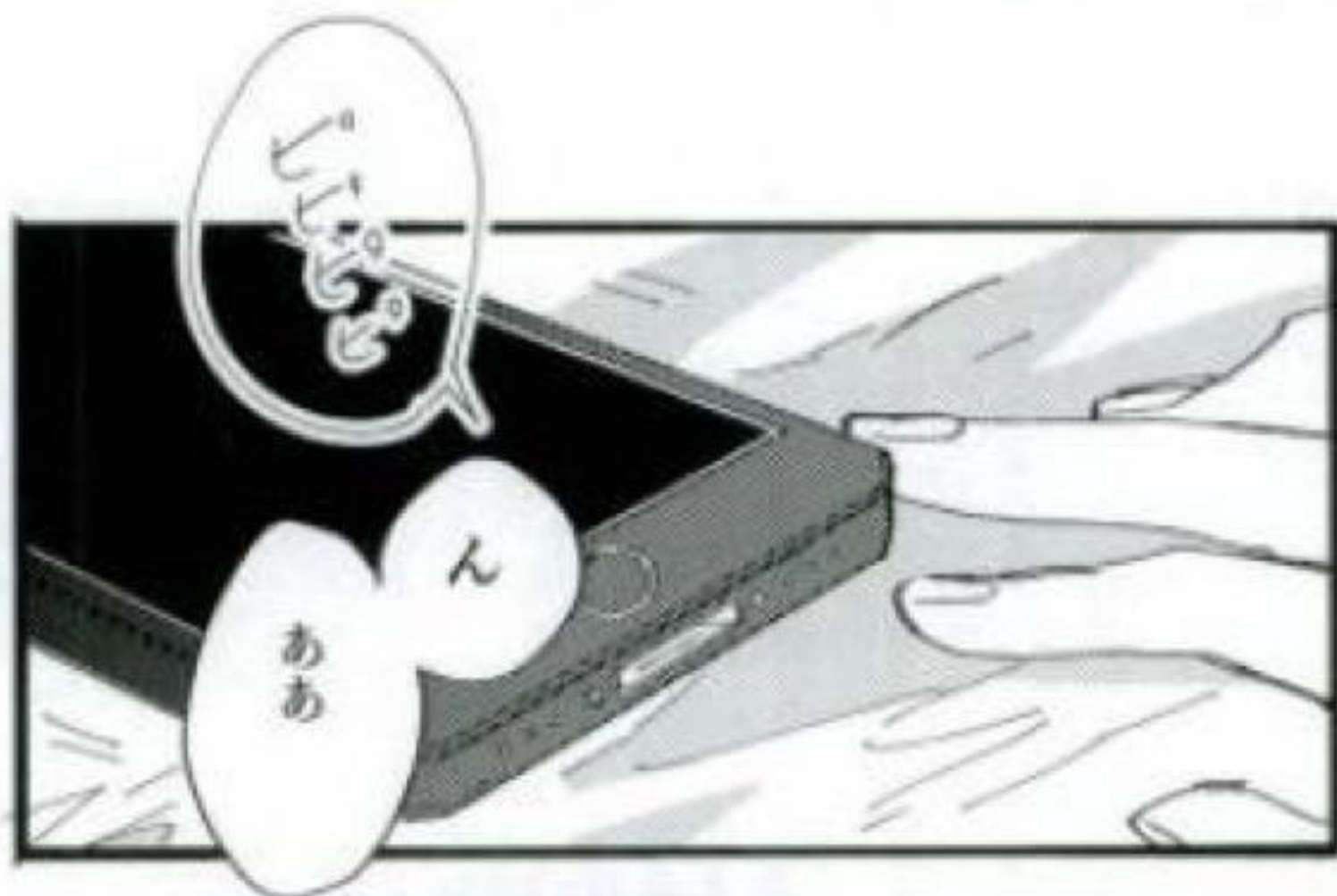
俺は











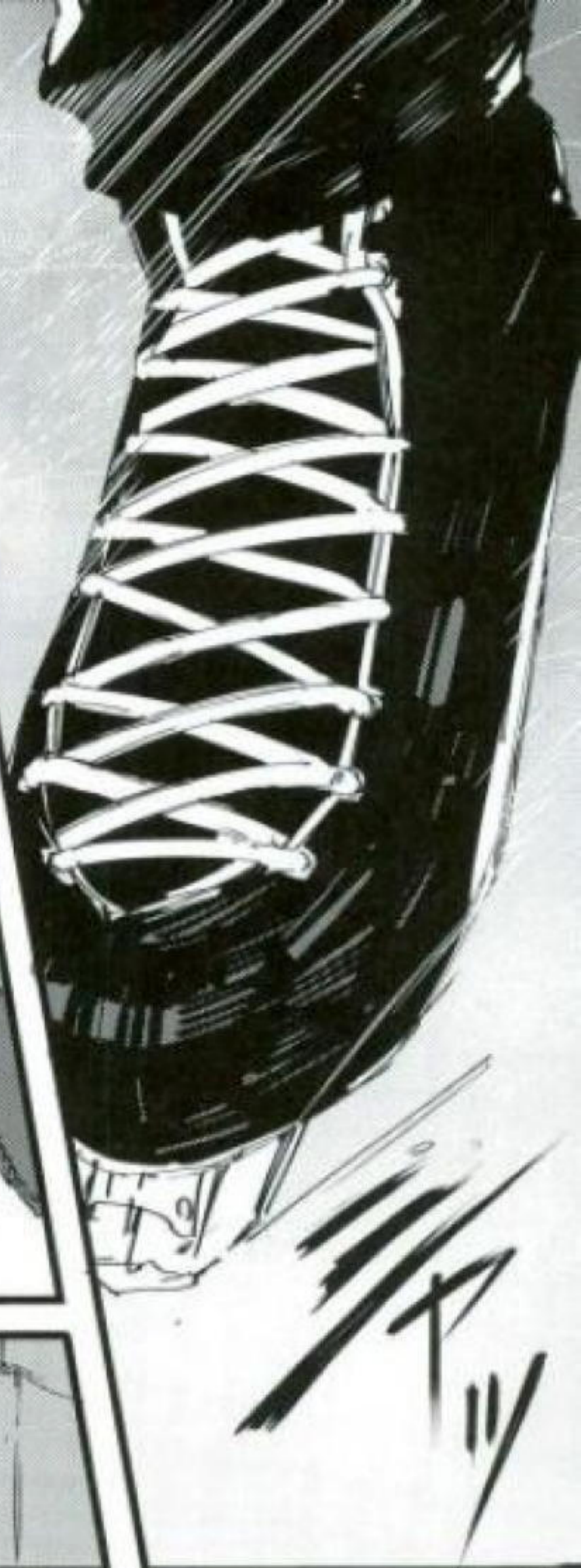












来ていたんだね  
オタベック











「何者の追隨を許さない孤高のスケーター！」

ユーリ・プリセツキー

「ロシアスケート界の新たな覇者」

なんて言葉を  
大衆から  
贈られた

勿論ユリオもその言葉に  
相応わしい滑りを見せ  
観衆の心を躍らせ続けた

しかし今





陰りが見え始めている

その栄光に



君も味わっただろ  
僕らの通った道  
のりひとつが

時間は魔物だ

僕たちの  
命は短い

彼にも近づいて  
きている

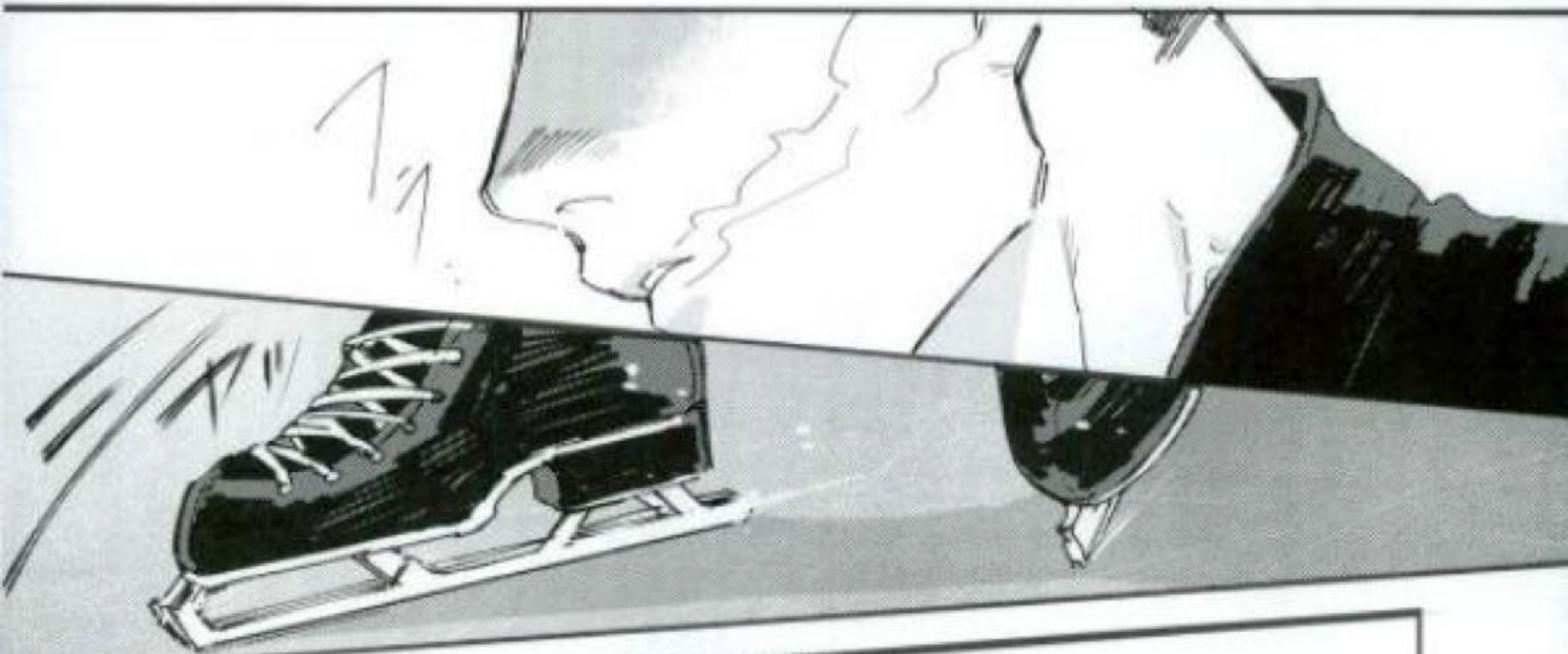


とりあえず  
僕はこの辺で...

そんな熱視線を  
向けないでよ

なんてね!







どうしたんだ？  
顔色悪いぞ

ヴィクトル

あいつと何か  
あったのか？

陰りが

見え  
始めて  
いる

……いや

何もない  
大丈夫だ

心配をかけて  
しまったようで  
すまない





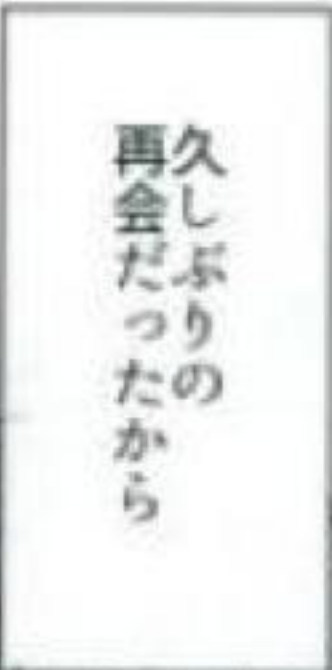




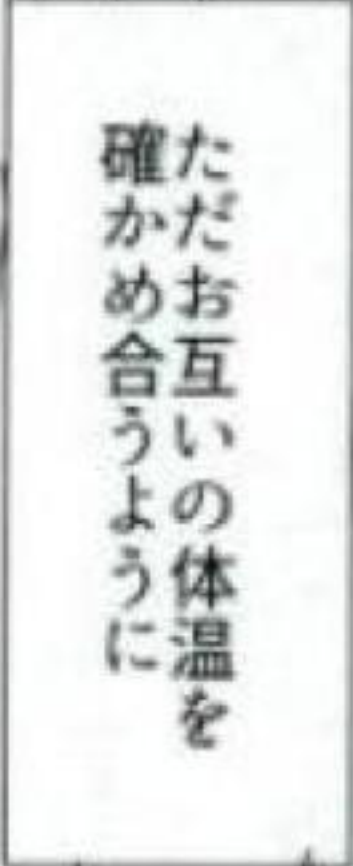




昨夜は



久しぶりの  
再会だったから



ただお互いの体温を  
確かめ合うように



向こうの事情も  
何も聞かず



抱きしめ合った

















……ふーん



ユリリとの食事は  
楽しいからな

ついつい一緒に  
色々食べて  
楽しみたくなるんだ



ユリリが  
ただただ楽しそうに  
そして自然に  
接してくれる……

彼の変化に気づかず  
俺は自分のわがままに  
付き合わせて  
しまった



俺が今彼に  
出来ることは  
なんだろうか……

なあ！











いつのまに……

いやなんか  
すげーお洒落な  
ショットがあつてよ！

白めンワいで、ササッってやるぞ。



普段そうでも  
ないけど

何か今日は  
飲みたい気分なんだよ



ありがとう  
いただくよ



俺たちの夜に

乾杯









…彼に触るな



え…あ  
うん

行こう  
ユーリ





握る力が強い

離す気配が  
全くない

一体俺たち  
どこに向かって  
いるんだ



ユーリ



氷上以外であんな気迫  
溢れるオタベックを見たの  
初めてかもしれない

ちよつとドキツと  
したな・



それにしても



せっかく誘って  
くれたのに

俺のせいで  
台無しにさせてしまった

あの男にも  
悪いことをしたと  
思っているが...

もつと他に別の方法が  
あったかもしれない

ついカッと  
なってしまった

しかし：  
しかしどうしても  
避けたかったんだ

君の顔に  
キズをつける  
可能性を

どうしても  
作りたくなかった

...オタベツクの  
せいじゃねえよ

もとは俺も  
悪かったし

ただお前は俺を  
守ってくれた  
だけじゃん

それにどっちも  
ケガをしていない

ありがとな





時間は魔物だ

ユーリ...



お前といると察してて  
ついついはしゃいでしまっ  
て

時間を忘れてしまうな



俺も君と  
行きたいところがある



なぜ今あの人の  
言葉が過るんだ...























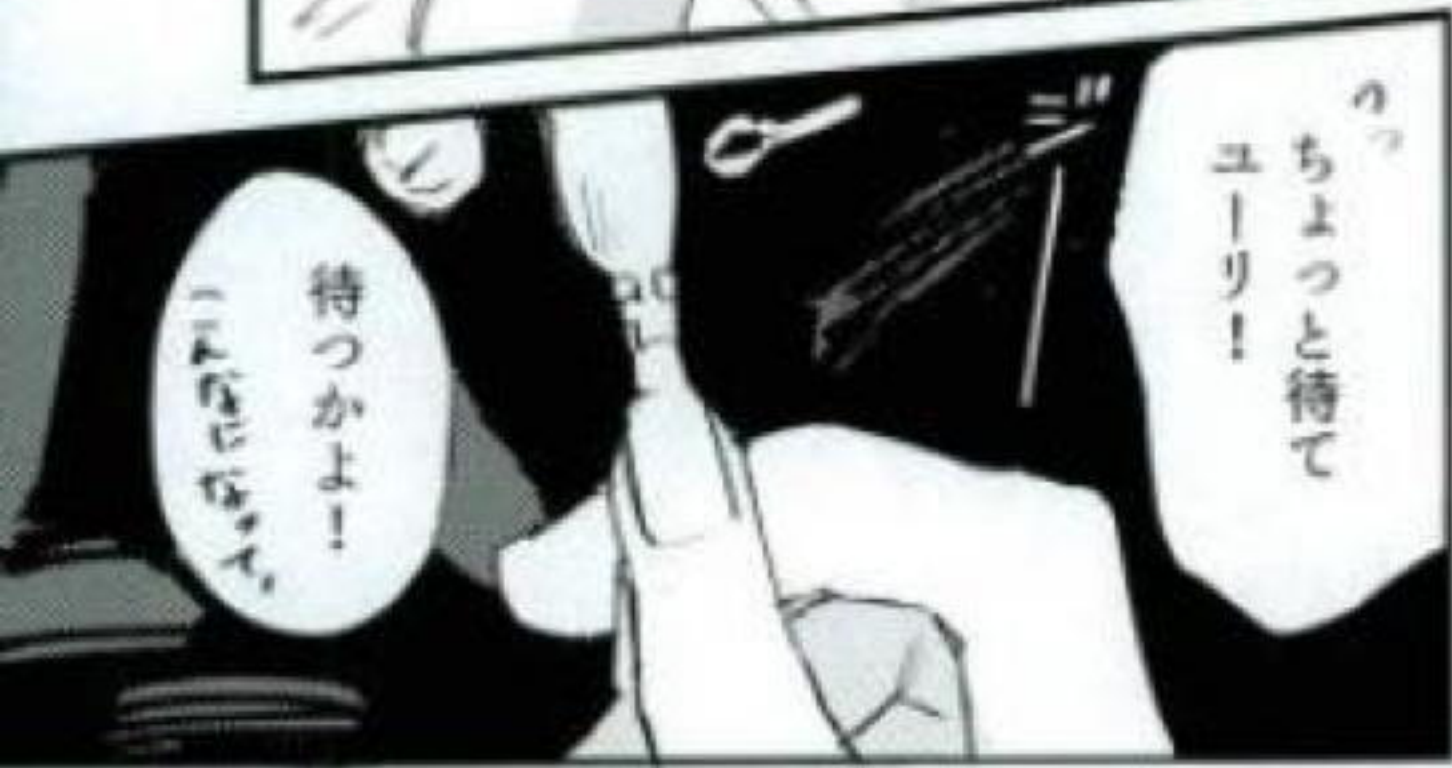
次は俺の番だから



ユーリ  
大丈夫か？

いつちまった...

...当たり前だろ



待つかよ！  
ハハハハハハ

ちよつと待て  
ユーリ！



ハハハ





















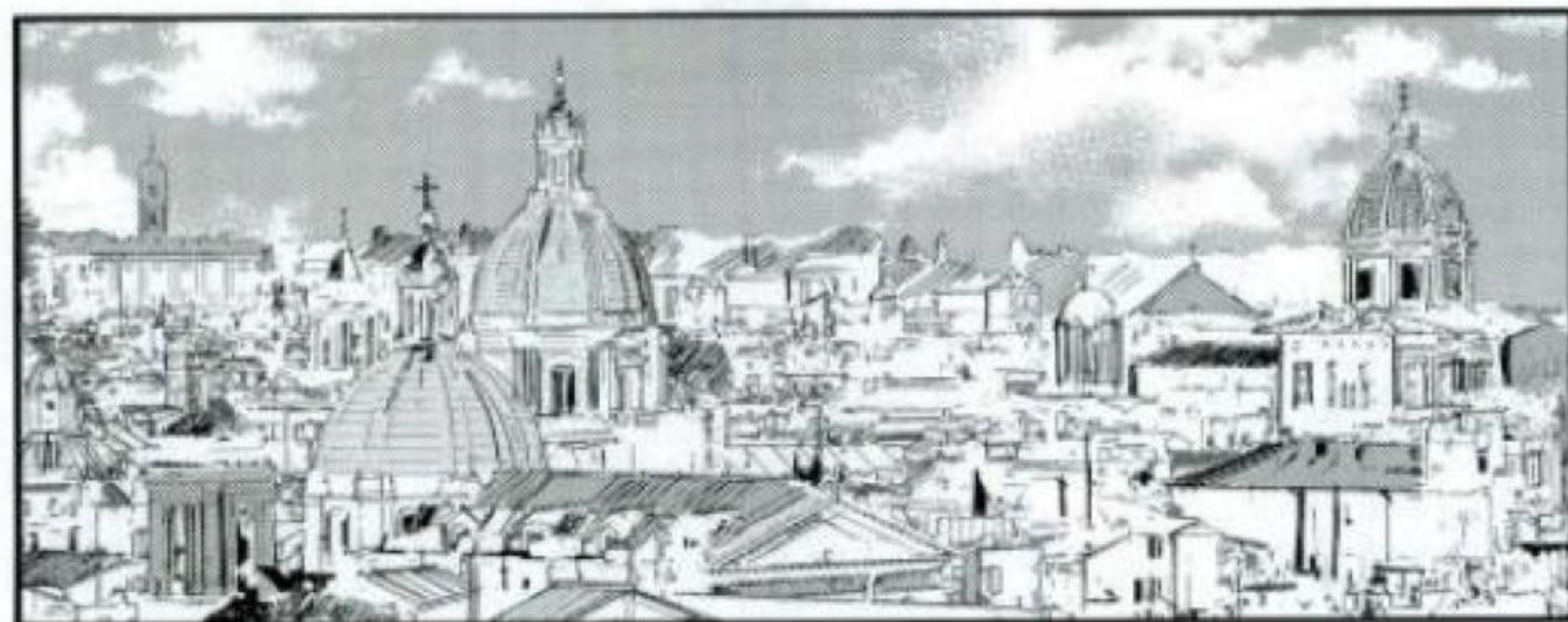
















なあ  
なんで俺はっか  
撮ってんの？

せっかく二人で  
旅行来てんだし

そこらへん  
良い感じの  
建築とかあんじゃない

そうだな





カメラを上げて

俺らが  
入るくらい



じゃあユーリ  
そこに立って…

だから！



シャッター  
切って

クシャッ  
クシャッ



しねえよ！  
それより向こうで  
アイス売ってる！

お前も食うだろ！  
行こうぜ！



奇跡のように  
いい写真だな

お前のフアンに  
売ったら高くつきそう

やめてくれ…





ユーリ……  
君の隣に俺が  
いられること

とても  
誇らしく思うよ



君のその  
瞳に出会えた



ノービスクラスに  
入れられた  
あの時の屈辱



自分の才能の無さに  
絶望したロシアの地で



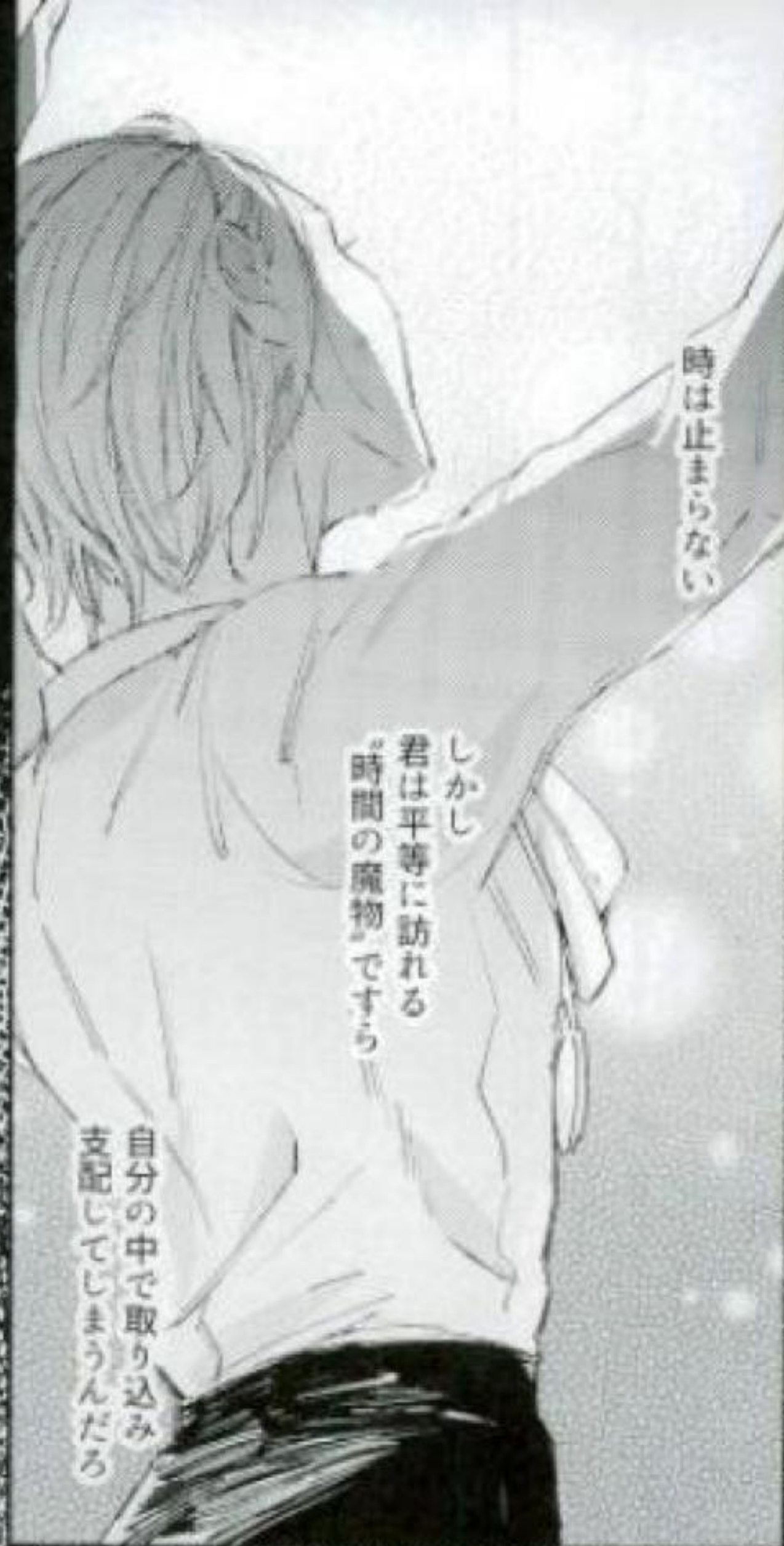
俺の世界を  
変えてくれた人

奮い立たせて  
くれた人

美しく  
決して灰にならない  
命を燃やし続ける君を

俺はずっと  
この目に焼きつけ  
続けていたい





時は止まらない

しかし  
君は平等に訪れる  
「時間の魔物」ですら

自分の中で取り込み  
支配してしまうんだろ



あの広告を見てから

その気持ちは  
前にも増して  
膨れ上がる一方だ















ごめんごめん  
ホカンとした  
顔のお前も

アッ



なんか良いなと  
思ったらつい

ああ



ホラ

手を  
貸すから



俺も水浸しに  
なっちまった

あくあ

カメラは……  
残念だったけど  
怪我がなくて  
よかったな  
時計も  
防犯カメラ

ザンバア







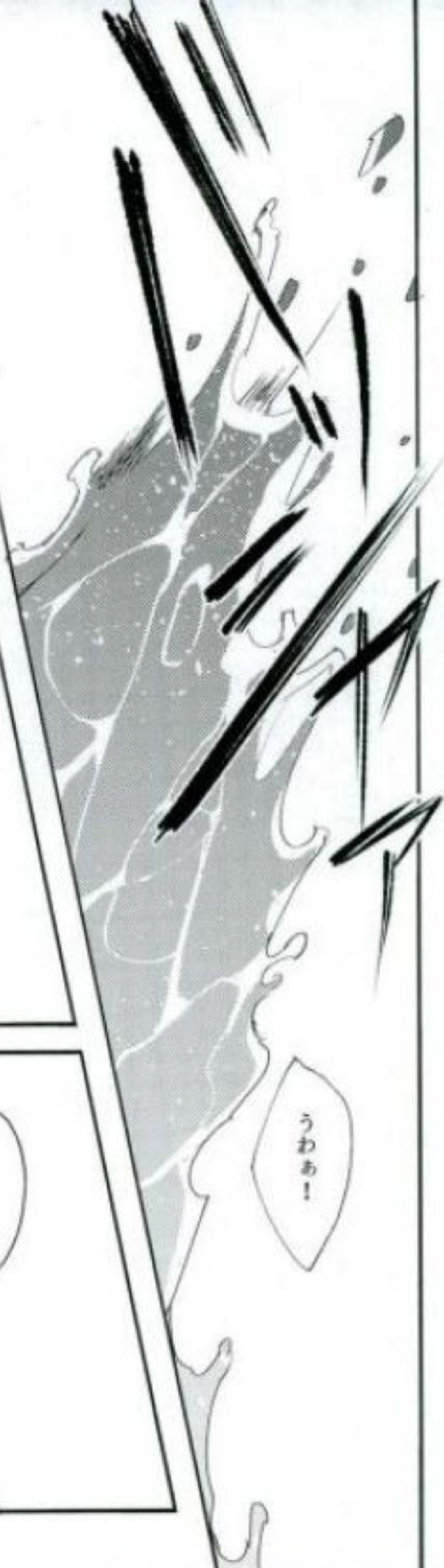


水飲んじまったし  
服もびしょびしょだし……

じゅわり

いきなり  
引っ張んじやねえよ！

ぶはっ……



ん……？



なんだよ  
その顔

うわあ！









2017.08.20 JILconia

BLU MAGAZINE